

バレンシア工科大学 (UPV) 留学報告

1210459 経済マネジメント学群 杉本 有



私は 2019/01～2019/06 までの間、大学間交換留学制度を利用して高知工科大学 からスペインのバレンシア工科大学 (UPV) に交換留学生として派遣されました。

現在、高知工科大学では経済マネジメント学群に所属しているため UPV でも関連学部の Faculty of Business Administration に所属しました

留学した経緯

高校時代から洋楽が好きで、英語自体は苦手でしたがとても好きな科目でした。

大学入学直後に開かれたジョン万次郎プログラムについて紹介されるガイダンスでたくさんの国際交流活動ができると知って心が躍り、そこで交換留学に興味を持ちました。

中学時代、私の通っていた中学校では無料で全員オーストラリアのヘリベリー校 に学生交換交流ができる制度があるなど国際交流自体は非常に身近なものでした。しかし高校時代は部活に全ての力を注いでいたため、国際交流とは無縁となっていました。そのため、大学ではもっと様々なことに挑戦して色々な世界を見てみたいと意気込んで大学に入学しました。すごく良いタイミングで交換留学制度について知ることが出来、本当に良かったと思っています。

その後、二回生となり、アメリカ Illinois College で行われた研修に参加し、改めてレベルや学生のモチベーションの違いに驚き、同時に憧れて最終的にこのような環境に身を置いてみたいと強く思い交換留学の申し込みを決心しました。

バレンシア工科大学を選んだ理由

特に、私の年から UPV で経営系の学部での学生の受け入れを開始したことが決め手の一つでした。幸い、協定校のほとんどが英語で履修可能だったため、当初は候補がたくさんありました。できるだけ、レベルの高いそしてダイバーシティの大きい環境を求めて、さらに高知工科大での部活動の全国大会の日程との兼ね合いも考慮し、最終的にバレンシア工科大学に決めました。

バレンシアでの暮らし

気候

亜熱帯性地中海気候であり穏やかな冬と、長く暑い夏が一番の特徴です。私が、バレンシアに到着したのは一月で日本では真冬の時期でした。しかし到着すると太陽が燦々と降り注いでおり、まるで初夏のように爽やかで暖かく感じ驚きました。特に湿度が低く雨も少ないため夏であっても日本より生活しやすいように感じました。

生活

バレンシアでは UPV の運営している留学生向けのサイトで紹介されていた学生寮のようところで生活しました。一人に一つ鍵付きの部屋が割り当てられていてコモンルームとキッチンとシャワールーム(&トイレ)を共用するというシステムでした。同じ階には UPV 情報系の博士課程のエクアドル人二人が住んでいました。慣れない生活ではありましたが、時には、一緒にご飯を作ったり、スペイン伝統の火祭りを見に行ったり、サッカーをテレビで観戦したり、とても楽しい生活を送ることができました。

スペインの代表的な料理といえば、パエリアです。本場で食べるパエリアは格別でした。同じく KUT の交換留学生の友達とバレンシアでの友達と到着当初に訪れたお店のパエリアを

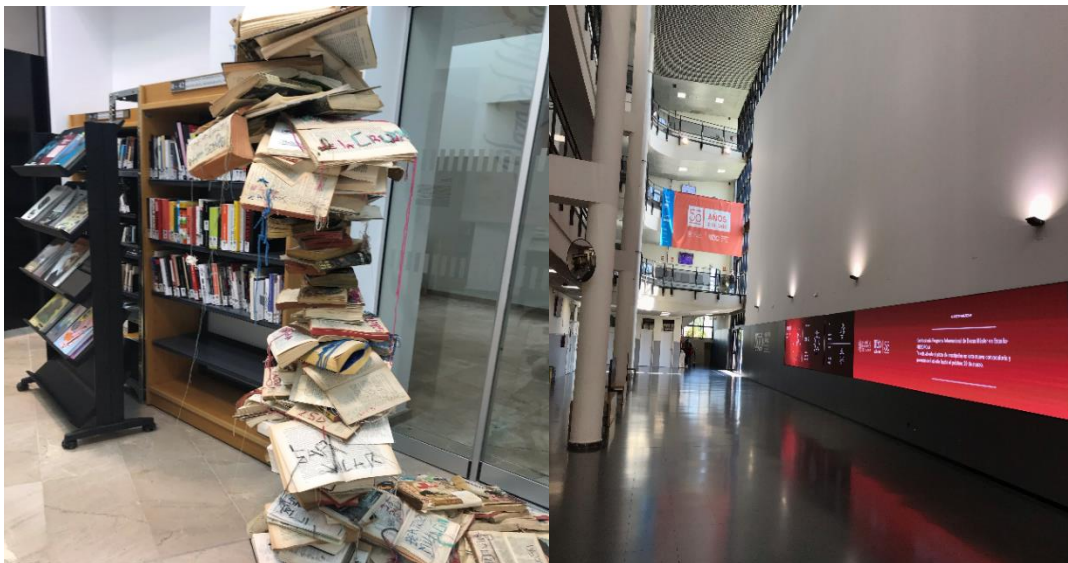
含めたスペイン料理は特に美味しいものでした。学校での食事も 数カ所食堂があり、自動販売機でパスタやパエリア、サラダやお菓子などを販売していたので食事に関して困ることはなかったです。



大学での生活

入学してすぐ、履修登録でつまづくことになりましたが友達をサポートがありなんとか履修登録期間に完了することができました。三回生の授業と四年生の授業を主に履修しました。特に、スペイン経済という授業は興味深いものでした。スペインの近代の歴史とヨーロッパ周辺諸国との関係、世界大戦を経たスペインの成長の歴史を産業と教育ベースで考えるという講義でした。他の学生とディスカッションしながら、なぜこのような事例が起きたのか明らかにしていくことで理解を深めていきました。しかし、突如、大部分をスペイン語での説明に切り替わることがあり、理解に苦しむことも多くありました。高知工科大学の経済マネジメント学群と非常に似ている学部のため、概ね授業の種類としては同じようなものでした。しかし、よりインタラクティブな授業形態でかつ進行スピードも日本と比べて圧倒的に早かったという印象があります。また、ラボセッションといってその科目のグループワークに対するクラスが時間割組み込まれており朝から夜まで学校にいることも多かったです。しかし、ラボセッションではより密に学生同士で意見の交換をするため、自分自身の意見を伝えるという度量とわずかな技術を身につけることができたのではと感じています。UPV は留学生の比率が非常に高く、スペイン人だけではなく特にヨーロッパ近隣諸国やアジアからの留学生が多く在籍していました。スペインに居ながらドイツ文化や中国、韓国文化にも触れることができ、

非常に様々な知見を得ることもできました。授業が終わると、図書館やコモンスペースで友達と遅くまで予習や復習をすることも大変でした。



まとめ

この留学生活は自分にとって、非常にタフな期間でした。授業や日常生活はもちろん環境が変わると、思い通りにいかないことが多く体調がすぐれないことも多々ありました。しかし、この留学生活は自分が望み、目標としていたため勉強に限らず日常生活や他の学生、から少しでも多くの学びを得ようと心がけていました。その結果 留学する以前より思考が深まり、将来の展望の解像度が上がったような気がします

